

中央区水辺環境の活用構想

(Edoみらい水辺構想)

～みんなが水辺を楽しめる、心地よい水辺空間づくりに向けて～



令和5年7月

中央区

1. 中央区水辺環境の活用構想とは

本構想のねらいと位置づけ、中央区の河川・運河における水辺の沿革を整理する。

●はじめに -なぜ、今、水辺の活用なのか-

中央区の人口は17万人を突破し、今後も人口増加が見込まれている。

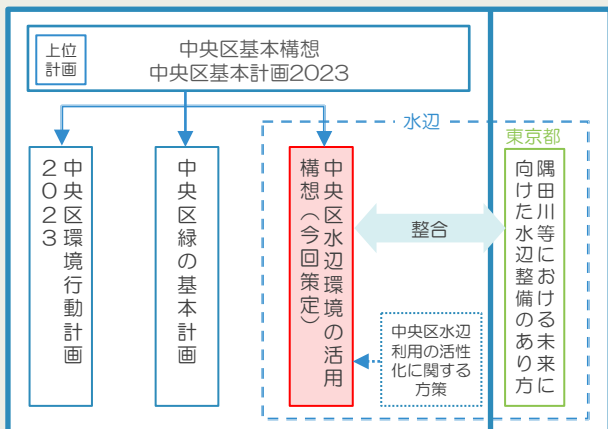
区民はもとより、来街者が心のやすらぎやゆとりを持つためには、公園や緑地のような憩いの空間が必要である。しかし、都心中央区では、公園等を新たに整備するには限りがあり、身近な緑を増やし続けてはいるが十分とは言えない。

江戸以来、水辺を盛んに活用してきた中央区において、これから未来においても水辺空間を活用していくことが重要である。

中央区は、東京湾湾奥部に位置し、隅田川、日本橋川、朝潮運河など水辺に恵まれていることから、区民は心地良く、広がりある空間を水辺に求めることができる。そこで市街地から接近しやすい水辺、散策しやすい水辺、定期的な舟運により楽しめる水辺など、区民生活にゆとりと豊かさを加える水辺利用を積極的に推し進めるため、「水辺環境の活用構想」を策定するものである。

●位置づけ

本構想の位置づけは以下のとおりである。



●中央区における水辺の沿革

中央区はもともと江戸前島の一部であり、徳川家康の天下普請により大規模な都市開発が行われ、水路が張り巡らされた水都に発展して、舟運が交通の中心として活躍した。また、明治から戦前にかけては、石川島、佃島が拡張され、その後、月島、勝どき、晴海などの埋め立てが行われたことにより、新たな水辺が誕生してきた。

戦後から高度経済成長期にかけては、江戸時代に整備された河川・水路の多くは戦災跡地の残土処理や高速道路建設のため消失し、現在では河岸や堀跡などの史跡が残るのみとなった。

1980年代以降は下水道整備等による水質改善や隅田川におけるスーパー堤防及びテラス整備により、再び水辺に目が向けられるようになってきた。

近年では、河川空間のオープン化や、運河沿いのにぎわいのある水辺空間の創出など、水辺の新たな活用を模索する取組や、水辺でのまちづくり事業が活発に行われるようになってきている。

	江戸	明治・大正・昭和	平成以降	
日本橋	 舟運が交通の中心として活躍 出典：中央区立郷土資料館	 水辺にぎわう様子 出典：中央区立郷土資料館	 日本橋川での高速道路建設 出典：中央区立郷土資料館	 日本橋百年祭のにぎわい 写真提供：一般社団法人 中央区観光協会
石川島・佃島・月島	 大規模な都市開発による 水の都としての発展 写真提供：江戸絵図(部分) 東京都立図書館	 石川島・佃島で 潮干狩りを楽しむ人々 出典：東京明細図会	 月島の西河岸に停泊する船 出典：中央区立郷土資料館	 大川端のスーパー堤防 写真提供：一般社団法人 中央区観光協会

2. 水辺活用の現状と課題

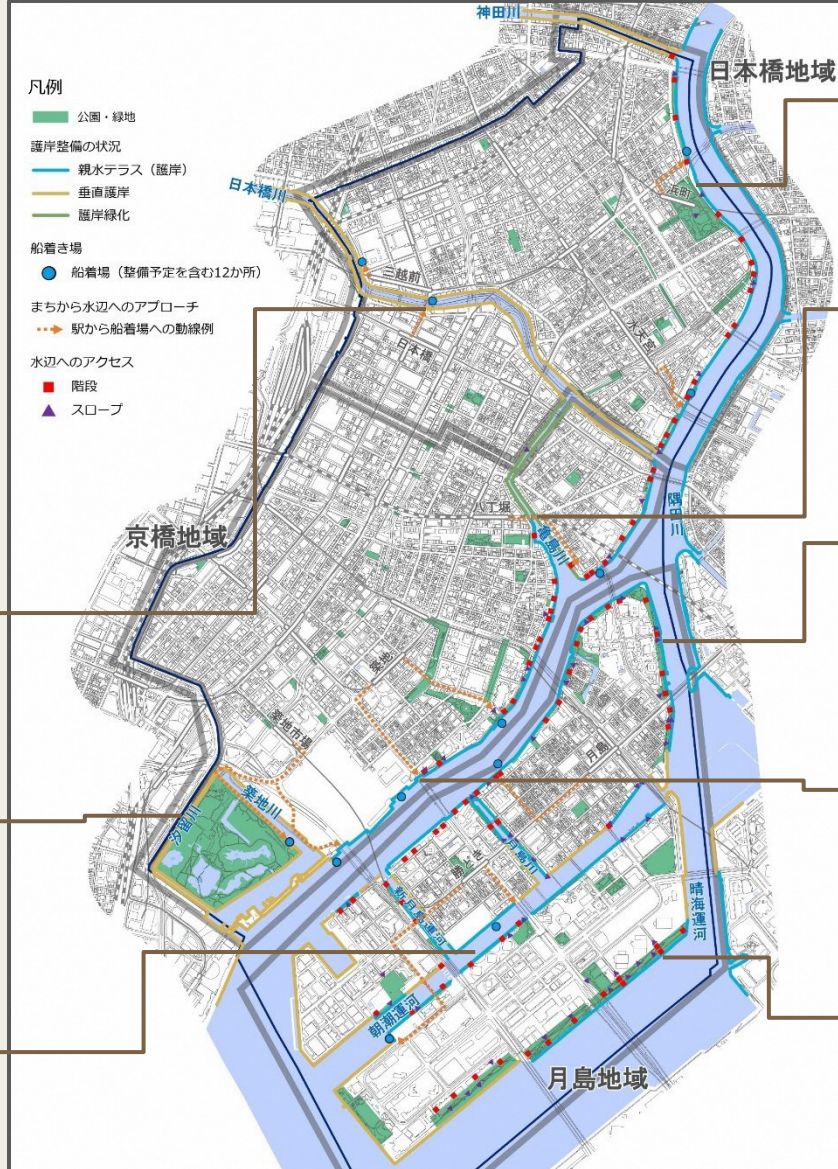
河川整備等の状況と水辺へのアクセス性の現状を把握し、今後の水辺活用に向けた課題を整理する。

中央区全体の水辺の現状と課題

- 隅田川沿いでは親水テラスの整備が約9割完了。しかし、水辺へアクセスするために必要な階段・スロープはその整備状況に地域差が存在。
- 一部の河川・運河では、水辺に背を向けて立つ建物も多く、水辺へのアクセスが困難。
- 石川島公園など、再開発に伴い公園と水辺が一体的に整備された地域では、良好な水辺環境が形成されているが、更なる水辺の活用が必要。



- 凡例
- 公園・緑地
 - 護岸整備の状況
 - 親水テラス（臨岸）
 - 垂直護岸
 - 護岸緑化
 - 船着き場
 - 船着場（整備予定を含む12か所）
 - まちから水辺へのアプローチ
 - 駅から船着場への動線例
 - 水辺へのアクセス
 - 階段
 - スロープ



各河川・運河の現状と課題

○日本橋川

- 上空は高架に覆われ暗く、垂直護岸のため水辺へのアクセスが困難
- 周辺再開発や首都高速道路の地下化に伴う、親水空間の創出が必要



○浜離宮恩賜庭園周辺

- 親水テラスが整備されておらず、水辺側から庭園を楽しむにくい
- 築地市場跡地のまちづくりと連携した親水空間の創出が必要



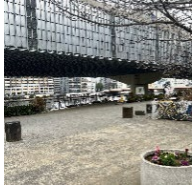
○朝潮運河

- 水門に囲まれた静穏な運河
- 月島・勝どき・晴海が親水公園として整備されているが、一部、橋によって連続性が分断
- 豊海を含めたテラスの連続化によるにぎわいや活用の促進が必要



○浜町公園周辺

- 公園と緑道が接続しており、水辺へのアクセスが良好
- 千代田公園を中心に浜町公園から両国橋まで親水空間で連続となった水とみどりのネットワーク化が必要



○亀島川

- 親水テラスの整備が進んでおらず、閉鎖管理
- 水門で囲まれているが、護岸緑化に留まっている
- 親水テラスの整備や静穏な水辺の活用促進が必要



○石川島公園周辺

- スーパー堤防による開放的な水辺空間が広がり、水辺へのアクセスが良好
- 一部、施設が老朽化した箇所も存在
- 干潟やバリ広場など、良好な資源を生かした更なる活用の促進が必要



○築地・明石町周辺

- 連続化されているが、階段・スロープの数が少ないため水辺へのアクセス性が乏しい
- 聖路加国際病院が隣接
- 築地市場跡地のまちづくりと連携した親水空間の創出とアクセス向上が必要
- 築地と浜離宮の連続化が必要



○晴海運河

- 晴海臨海公園と晴海緑道公園・晴海ふ頭公園が一体的に整備され、水辺の連続性・アクセスが良好
- 晴海をぐるりと一周できるようなテラスの更なる連続化が必要



3. 水辺に期待する機能

中央区内の河川・運河における水辺の活用状況を踏まえ、水辺の楽しみ方を以下のように取り組んでいく。

都市の水辺空間の持つ直接的な機能

親水

修景

生物の
生息、生育

防災
(消火用水、延焼遮断など)

水上交通

水質浄化

気温上昇緩和



出典：都市の水辺整備ガイドブック（H21.2、国土交通省）

近年、河川空間のオープン化※など、にぎわいのある水辺空間や水辺の新しい活用の可能性を創造していく取組が活発化

※：河川敷地占用許可準則（社会実験としての特例措置：H17～、特例措置の一般化：H23～）

都内随一の水辺空間を活かし、いろいろな水辺の楽しみ方（機能）があることが中央区の強み

親水利用



- 水辺が見える生活は心地よい。
- 親水公園は自然にもふれられ、楽しい。眺めも最高。
- もっと水面に近づいてみたい。

にぎわい創出



- いろいろな楽しみ方が出来る水辺。いつ行っても楽しそうな人で賑わっている。
- 来週イベントが楽しみ。

観光振興



- 水辺に誘われ、新しい中央区を発見。桜もきれい。
- 観光地を船で巡りたい。
- 中央区と言えば水辺。

コミュニケーション
醸成



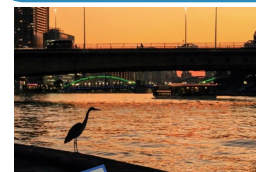
- 気持ちの良い水辺で、納涼祭り。会話も弾む。
- 共通点は水辺好き。新しい出会いが期待できそう。

健康づくり



- 水辺のランニングは気持ちが良い。朝ランが習慣。
- 水辺が近いと、自然と体を動かしたくなる。水辺ヨガ。

憩い・安らぎ



- 水辺でゆっくりほっと一息。自然を感じられる綺麗な景観。
- ベンチに腰掛け、夕日を見ながら黄昏たい。月や星を見に行こう。

水上交通



- 風に吹かれ、船通勤。朝から気持ち良い。
- 船に乗って水辺デート。
- 災害の際は、船で避難を。

環境教育
・生物多様性



- 図鑑で見た魚や鳥を実際に見に行こう。
- 水辺で生き物や植物の観察がしたい。

歴史・文化の
継承



- 神輿を船に乗せて川を渡る船渡り御。
- 歴史と伝統をもつ、こんな祭りに参加したい。

ビジネス空間



- 水辺で出るアイデアは面白い。水辺で会議を。
- 気持ちの良い空間で仕事がしたい。

癒しの提供



- 心身共にお疲れ気味。水辺を散策して心に癒しを。
- リハビリなど水辺の癒し空間の創出。

水上スポーツ
・アウトドア活用



- 気軽にカヌーやSUPがしたい。
- 涼しい水辺でデイキャンプを楽しみたい。子ども達もおおはしゃぎ。

4. 水辺活用の方向性①

現在、中央区内で進められている日本橋上空の首都高速道路の地下化や築地市場跡地のまちづくり、東京2020大会のレガシーとなるまちづくりと合わせた水辺活用により、区民が親しみ、楽しめる水辺を提供していく。

《基本計画2023におけるリーディングプロジェクト》

中央区セントラルパーク構想 ～人と水とみどりの森～

01 ゼロカーボンシティプロジェクト

02 水とみどりプロジェクト

03 コミュニティ活性化プロジェクト

04 経済活性化・文化振興プロジェクト

《水辺の目指すべき姿》

Edoみらい水辺構想（みんなが水辺を楽しめる、心地よい水辺空間づくりに向けて）

江戸の発展に大きく寄与した水辺の歴史的な役割を再認識するとともに、水辺の環境（Environment）と水辺沿いの開発（development）が融合した水辺づくりを実施（operation）し、その魅力をまちなかに波及することで、憩い、うるおい、にぎわい、防災、健康増進、レクリエーションなど多様な機能を発揮できる居心地の良い上質な水辺空間を創出する

方針①：水辺空間の質的向上

➡ 水辺沿いの開発等との連携により
「水辺の核をつくる」

方針②：水辺空間への回遊性向上

➡ 歴史ランドマークとの連携により
「水上・水辺・まちの
ネットワークをつくる」

方針③：水辺空間の持続的活用

➡ 川やまちの活動団体との連携などにより
「持続的な活用のしくみをつくる」

京橋地域

日本橋地域

月島地域

【水辺の核】

- ① 東日本橋・浜町公園エリア
- ② 日本橋エリア
- ③ 築地エリア
- ④ 佃・湊・新川エリア
- ⑤ 豊海エリア
- ⑥ 晴海エリア

水辺空間の質的向上

…水辺沿いの開発等との連携により
「水辺の核をつくる」

水辺空間への回遊性向上

…歴史ランドマークとの連携により
「水上・水辺・まちのネットワークをつくる」

【3つのネットワーク】

水上ネットワーク

水辺のネットワーク

まちのネットワーク

まちづくりのにぎわい・交流エリアとして上質な水辺空間の持続的活用

…川やまちの活動団体との連携などにより「持続的な活用のしくみをつくる」

4. 水辺活用の方向性②

水辺活用の考え方として、まず「水辺の核」の形成と「水上・水辺・まち」の3つのネットワークで核をつないでいく。

●水辺活用の考え方

区内各所に「水辺の核」を形成し、「水上・水辺・まち」の3つのネットワークでつなぐことで、区民はもとより来街者も居心地が良い上質な水辺空間をつくる。その上で持続的な活用のしくみをつくる。

■水辺の核をつくる（水辺活用の拠点となるエリア）

①東日本橋・浜町公園エリア

浜町公園を拠点とした隅田川沿いの水辺や緑道との一体的利用



④ 佃・湊・新川エリア

先進的であるが、古風な水辺も残り、生き物と共存する水辺空間



②日本橋エリア

再開発等による川沿いのプロムナード整備に伴うにぎわい創出、舟運の活性化



⑤豊海エリア

羽田、品川、天王洲等の水辺の拠点をつなぐ新たな海の玄関口となる可能性



③築地エリア

大規模集客施設を背景としたエンターテインメント性が高い水辺空間



⑥晴海エリア

水辺と一体化した開放的な都市生活を満喫できる水と緑の快適空間



写真提供：一般社団法人中央区観光協会（豊海エリアを除く）

■「水上・水辺・まち」で核をつなぐ

水上ネットワーク：

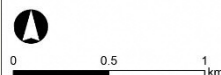
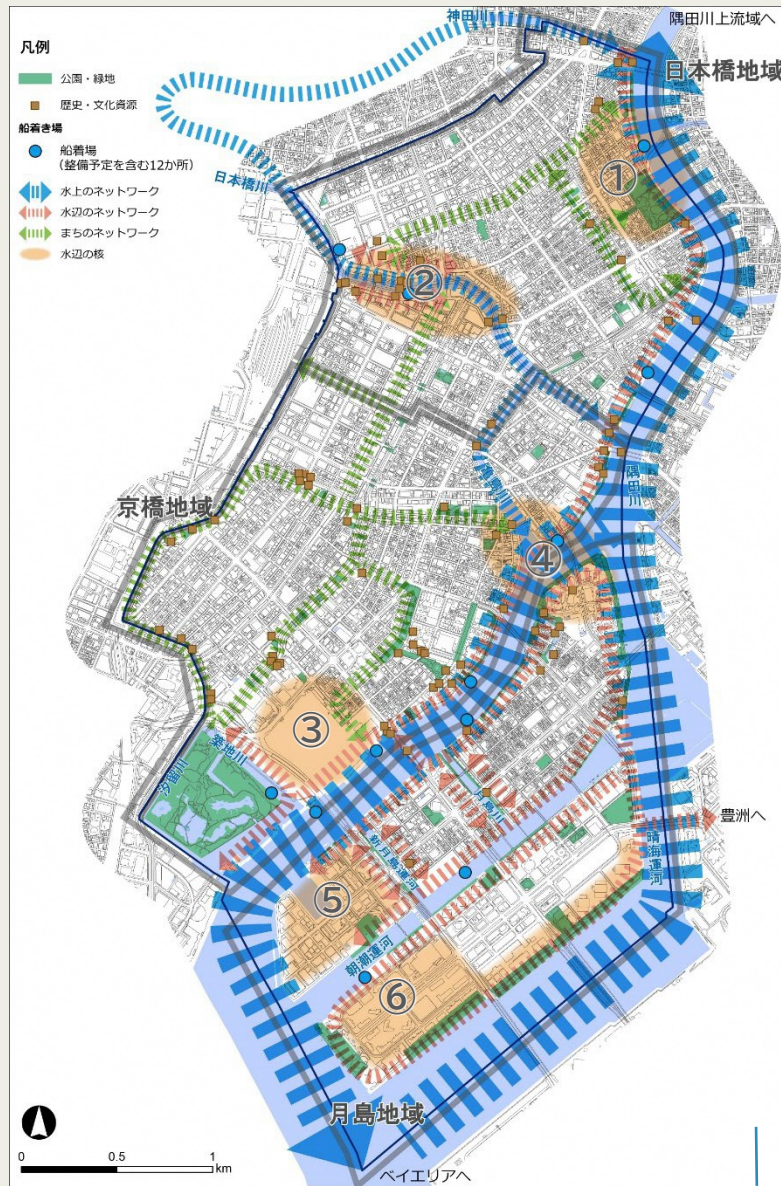
隅田川沿川区と東京湾隣接区をつなぐ広域交通軸

水辺のネットワーク：

水辺のテラスや水辺の散策路をつなぐ歩行者ネットワーク軸

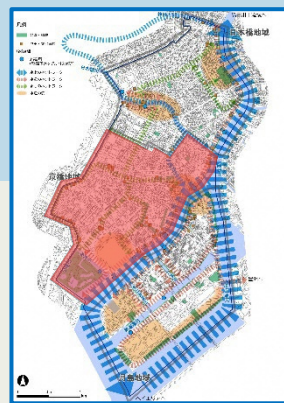
まちのネットワーク：

まちなかの歴史ランドマークと緑道をつなぐ回遊軸



5. 地域別展開の方向性①

京橋地域



コンセプト

世界を魅了する歴史とみどりの水辺まちづくり

地域特性

過去

○かつては江戸の代表的な大名庭園であった浜離宮恩賜庭園や、外国人居留地が存在した地域

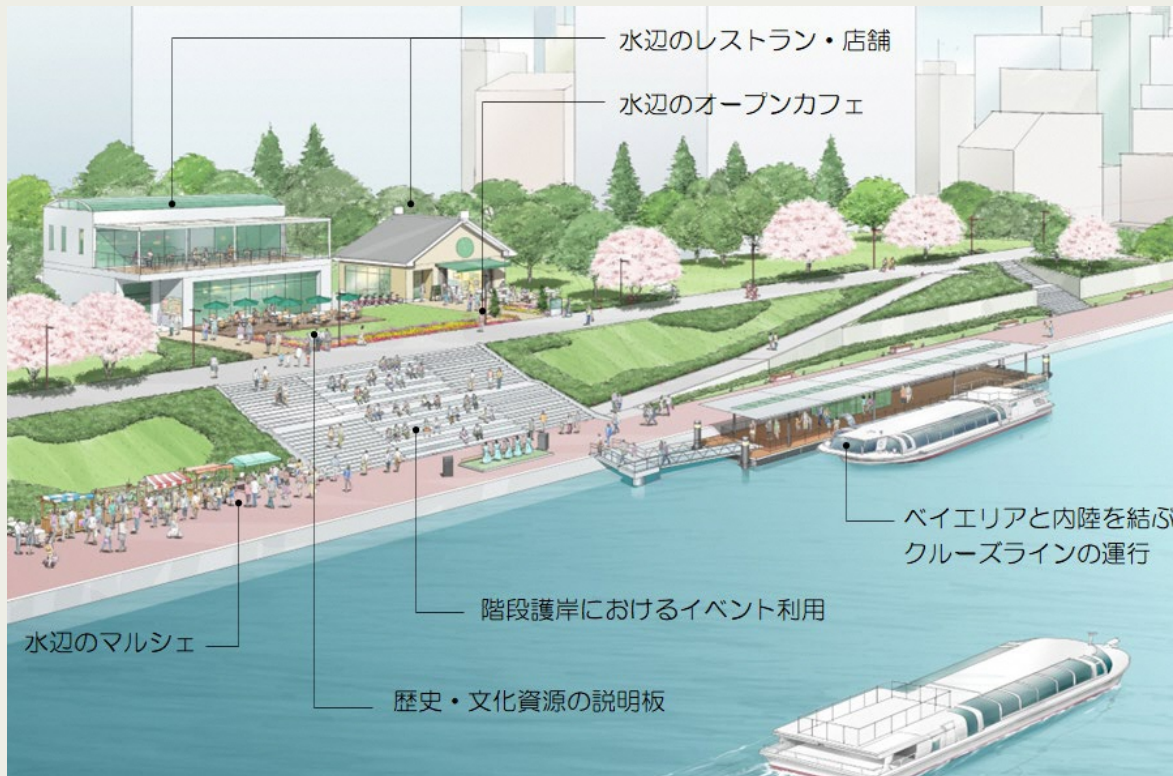
現在

○商業・業務地としての土地利用がメインであり、区内でも来街者・就業者が多い

将来

○築地市場跡地のまちづくりや銀座・築地周辺みどりのプロムナード構想などとの連携が期待

水辺活用イメージ



主に期待する機能

にぎわい創出

観光振興

水上交通

歴史・文化の継承

コミュニケーション醸成

水辺活用の方向性

(水辺の核)

○築地エリア

(水辺活用の展開例)

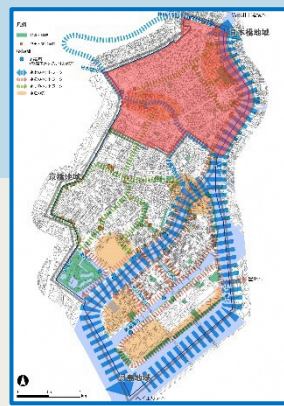
○沿川の開発事業と連携した水辺のレストランや店舗の整備・活用 (にぎわい創出)

○水辺のイベントやクルーズラインなどエンターテインメント性が高い水辺活用 (観光振興、水上交通)

○みどりのプロムナードと連携した水辺とまちの歴史・文化資源をめぐるツアーの実施 (歴史・文化の継承)

○水辺のマルシェ開催による居住者・来街者・就業者の交流促進 (コミュニケーション醸成)

5. 地域別展開の方向性②



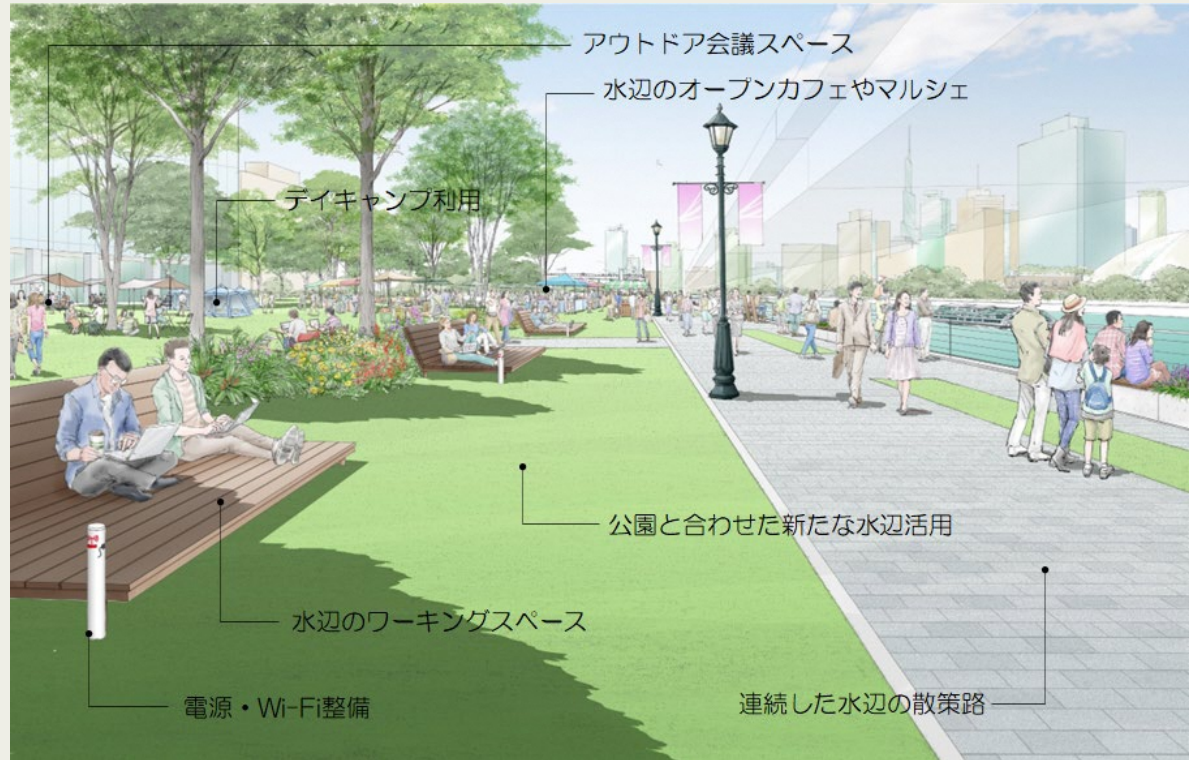
コンセプト

まちに開かれた働く人でのぎわう新進の水辺まちづくり

地域特性

- 過去** ○日本橋周辺は魚河岸等が集積し、流通拠点として発展
- 現在** ○都心居住の推進により、日本橋エリアにおいても居住人口が増加中
- 昔ながらの伝統・文化を受け継ぐ老舗と新たなオフィス・商業施設が存在
- 将来** ○首都高速道路の地下化と連携した日本橋川の水辺空間整備や、沿川の公園・緑道の再整備による水と緑のネットワーク形成など、水辺との連携の好機

水辺活用イメージ



主に期待する機能

- 歴史・文化の継承
- ビジネス空間
- にぎわい創出
- コミュニケーション醸成
- アウトドア活用

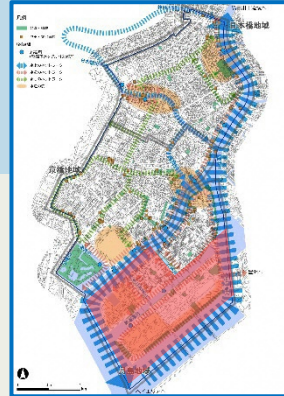
水辺活用の方向性

- (水辺の核)
- 東日本橋・浜町公園エリア
 - 日本橋エリア

- (水辺活用の展開例)
- 公園と合わせた新たな水辺活用（歴史・文化の継承）
 - 都会の喧騒から解放された水辺のワーキングスペース（電源・Wi-Fi整備）としての活用（ビジネス空間）
 - 沿川開発や公園等の再整備と合わせた水辺のオープンカフェやマルシェによるにぎわい誘導（にぎわい創出、コミュニケーション醸成）
 - 水辺の公園やオープンスペースと一体となったデイキャンプ利用（アウトドア活用）

5. 地域別展開の方向性③

月島地域 (勝どき・豊海・晴海)



コンセプト

臨海部の玄関口を活かした水辺まちづくり

地域特性

過去

○昭和初期に完成した埋立地であり、かつて物流の拠点となる埠頭機能として活用

現在

○晴海や勝どき地区は高層マンションが多く、ファミリー世帯の増加が顕著
○豊海地区は、冷蔵倉庫が立ち並び、一部は市街地再開発事業により住宅系用途に転換

将来

○東京2020大会のレガシーとなるまちづくりと合わせた水辺活用が期待

水辺活用イメージ



主に期待する機能

水上交通

親水利用

コミュニケーション醸成

癒しの提供

健康づくり

水辺活用の方向性

(水辺の核)

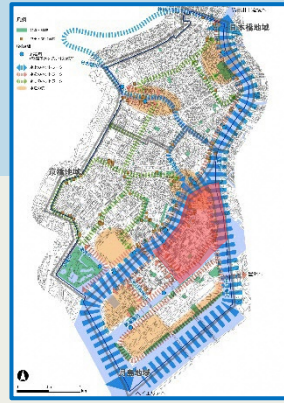
- 晴海エリア
- 豊海エリア

(水辺活用の展開例)

- 東京BRT・都営バス・コミュニティバスなどの陸上交通と結節した水上ネットワークの形成 (水上交通)
- 開放的な水辺空間を活かしたマルシェ開催等の交流スペースの提供 (親水利用、コミュニケーション醸成)
- 癒し空間の創出による水辺のリハビリ利用 (癒しの提供)
- 開放的な水辺をのぞむジョギングルートの設定 (健康づくり)

5. 地域別展開の方向性④

月島地域
(佃・月島)



コンセプト

生き物と共生する憩いの水辺まちづくり

地域特性

過去

○江戸時代には佃島と石川島のみ存在し、築地との間で渡し船で往来

現在

○スーパー堤防整備により、主に住居系の土地利用
○生き物の住处づくりや環境教育に配慮した水辺を整備

将来

○市街地再開発事業によるファミリー層を中心とした人口の増加

主に期待する機能

環境教育・生物多様性

健康づくり

憩い・安らぎ

水上スポーツ

水辺活用の方向性

(水辺の核)

○ 佃・湊・新川エリア

(水辺活用の展開例)

- 湿地や干潟の造成と石倉かごを活用した子供たちの環境教育・生き物観察（環境教育・生物多様性）
- 広い水辺空間を活用したジョギングや水辺ヨガ等の健康づくり（健康づくり）
- 親水護岸整備や水辺へのさらなるアクセス向上による水辺のリラックス空間の創出（憩い・安らぎ）
- カヌー・SUP等のアクティビティの展開（水上スポーツ）

水辺活用イメージ



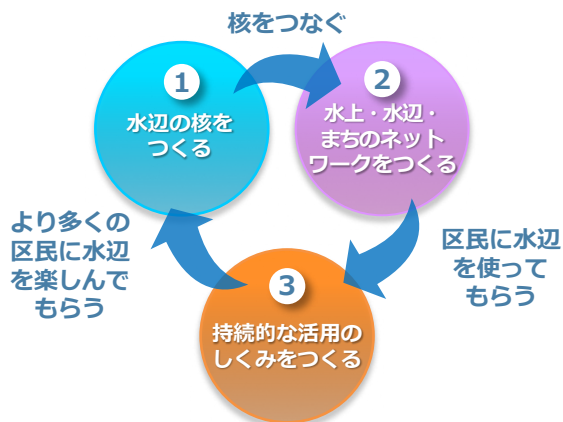
6. 本構想の実現に向けて

本構想は、中央区の河川・運河における水辺の使い方の方向性を示したものである。本構想の実現に向けては、河川や運河の管理者である東京都などとの行政間調整が必要であるとともに、区民をはじめとして、水辺沿いの開発を行っている民間事業者、まちづくりや水辺で活動を行っている団体との連携・協力が不可欠である。

今後の進め方

水辺沿いで行われる公園整備や開発事業等と連携して①「水辺の核」をつくっていくことをベースに、段階的に、水辺の回遊性を高める取組である②「水上・水辺・まちのネットワーク」の充実を図っていくものとする。そのためには、積極的に民間等の活力を引き出していくとともに、水辺に関心を持ち活用を行う区民や活動団体を育てるなど③「持続的な活用のしくみ」を構築していくものとする。

そして、このサイクルの輪を広げることで、『みんなが水辺を楽しめる、心地よい水辺空間づくり』を実現していくことが大切である。



今後の進め方の概念図

実現に向けての今後の課題・取組

以下の3つの取組を設定し、今後5年間で実施する「重点プロジェクト」を進めていく。

① 水辺の核をつくる

(今後の課題)

- 地域資源との連携（水辺と公園・緑地、歴史的ランドマークとの連携）
- まちづくりとの連携（水辺沿いの開発と一体となった水辺整備・活用）
- にぎわい創出に向けたイベントの支援・拡充
- 快適な利用に向けた水質の改善

重点プロジェクト① 水辺を活用した生き物の住処づくり

② 水上・水辺・まちのネットワークをつくる

(今後の課題)

- 水辺への近づきやすさの改善（水辺へのアプローチや水辺の連続性の確保）
- 水上交通の利便性向上（船と鉄道、バス、自転車との結節）

重点プロジェクト② 回遊性・連続性のある水辺空間の整備

重点プロジェクト③ 舟運の活性化

③ 持続的な活用のしくみをつくる

(今後の課題)

- 水辺を活用する区民や活動団体へ向けた情報発信、しくみづくり

参考資料 中央区の水辺活用の展開方策

